

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
 (仮称)ケースデンキ松井山手店

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010
 ■評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010(v.1.6)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境			0.40					3.0
1 音環境		3.0	0.15					3.0
1.1 騒音		3.0	0.40					
1 室内騒音レベル		3.0	1.00					
1.2 遮音		3.0	0.40					
1 開口部遮音性能		3.0	1.00					
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音		3.0	0.20					
2 温熱環境		3.0	0.35					3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50					
1 室温		3.0	0.50					
3 外皮性能		3.0	0.17					
4 ゾーン別制御性		3.0	0.33					
2.2 湿度制御		3.0	0.20					
2.3 空調方式		3.0	0.30					
3 光・視環境		3.0	0.25					3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.50					
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備		3.0	1.00					
3.2 グレア対策								
2 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御		3.0	0.50					
4 空気質環境		3.0	0.25					3.0
4.1 発生源対策		3.0	0.50					
1 化学汚染物質		3.0	1.00					
4.2 換気		3.0	0.30					
1 換気量		3.0	0.50					
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50					
4.3 運用管理		3.0	0.20					
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50					
2 喫煙の制御		3.0	0.50					
Q2 サービス性能			0.30					3.3
1 機能性		3.5	0.40					3.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40					
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画		3.0	1.00					
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30					
1 広さ感・景観	天井高さが4.5mで、陳列棚が約1.2m程度のため解放感がある。また、店内の一望出来、見通しも良い。	4.0	0.33					
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33					
3 内装計画		3.0	0.33					
1.3 維持管理		4.5	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	各仕上材に防汚性能が高いものを使用している。風除室を設けて掃除用具入れ(SK)を専用に設置し、シンクも設けている。	4.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		5.0	0.50					
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31					3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23					

2.4 信頼性			3.4	0.19			
1	空調・換気設備	ゾーニング系統を分け、各ゾーンごとに様々な設定管理を可能としている。	5.0	0.20			
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備		3.0	0.20			
3 対応性・更新性			3.2	0.29			3.2
3.1 空間のゆとり			3.8	0.31			
1	階高のゆとり	売場について天井高さが4.5mを確保している。 エントランスは約6mの天井高さとしている。	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ		2.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31			
3.3 設備の更新性			3.0	0.38			
1	空調配管の更新性		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性		3.0	0.22			
6	バックアップスペース		3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30			3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30			3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-			3.3
LR1 エネルギー			-	0.40			3.6
1 建物の熱負荷抑制		外皮部分に断熱性能が高い材料を使用。窓の面積が少ない。	3.3	0.30			3.3
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20			3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光パネルを設置し、照明エネルギーに利用している。	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化		省エネ効率の高いマルチエアコンを使用	4.5	0.30			4.5
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR=25.9%	4.5				
集合住宅の評価							
4 効率的運用			3.0	0.20			3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50			
4.2	運用管理体制		3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30			3.0
1 水資源保護			3.0	0.15			3.0
1.1 節水			3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.63			3.0
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	床材:ビニル床材	3.0	0.21			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21			
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-			
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み		3.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22			3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68			
1	消火剤	ハロン消火剤の使用無し	4.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33			
3	冷媒		3.0	0.33			
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.3
1 地球温暖化への配慮		断熱計画を通正に行い、余分な負荷を掛けていない。	3.8	0.33			3.8
2 地域環境への配慮			3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25			
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	自転車・自動車・荷捌搬入車両ともそれぞれ専用スペースを設けて	4.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制	ごみ庫を専用で設け、また、施設のごみ箱も分別式としています。	4.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1	騒音		3.0	0.33			
2	振動		3.0	0.33			
3	悪臭		3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制						
3	日照障害の抑制		3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			